

第23回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧下さい。

2006年 10月 27日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

ヒューマンエラーについて「なぜなぜ分析」する際のキーワード

近年設備や作業や運営体制が多岐にわたるとともに、複雑化していることから、非常に多くのヒューマンエラーが発生しており、それに頭を抱えている人も少なくないのではないのでしょうか。

本を調べても、難しい用語が羅列されており、私たちのように対策を考える人にとっては、何をどう考えたらよいのか良くわからないといったところです。

私がいつもセミナーや研修会で申し上げているように、人それぞれの心の中の話(これを心理学では臨床心理と言うそうですが)をどうのこうの言っても、それは結局その人だけに向けた対策になっしまい、同じ作業をする他の人への対策にはならない場合がほとんどです。

もともと、刑事事件のように、そこまで入り込まないと真相が究明できないケースはありますが、それはそのようなこと(責任の追及)を生業としている方々は大いにやっていただきたいと思います。

私たちは同じ職場の中で、責任の追及をしてはならず、再発防止策を導くために必要な原因の追求をしなければなりません。(もちろん、過失を念頭に置いており、故意にやった場合は別です)

では、私たちはどのような方向に「なぜ」を進めていくと再発防止策につながりやすくなるのか、それを以下にキーワードとして列記しましょう。

見まちがい	聞きまちがい	言いまちがい	入れまちがい	取りまちがい
押しまちがい	読みまちがい	書きまちがい	打ちまちがい	判断まちがい

これらは、最近製造現場の方々だけではなく、様々な職種や業種の方々と一緒に分析を進めていくケースが私自身増えており、その中で得られたものです。

このように、「〇〇まちがい」といった方向に「なぜ」の矛先を向けていくと、その次の「なぜ」が見えてくる場合が多いようです。

皆さんも分析する際には、上記のキーワードから要因を考えてみてください。

きっと今まで見えてこなかったことが見えてくるでしょう。

以上